

TJM1001ラバーマット



ロールタイプ 標準施工要領・メンテナンス手順

改定日：2023/10/01

製品に関するお問い合わせ

製品お問い合わせ窓口へ

お問い合わせください。

コンシューマ事業部

0791-62-0088

土日祝日を除く 10:00~18:00

KLASS株式会社

〒679-4195兵庫県たつの市龍野町日飼190

事前準備

1. ロールの運搬と保管について

- (1) 敷設工事は、すべてのロールの運搬が終わるまで始めないでください。
未開封のラベルが張ってある状態で作業現場へ納入してください。
- (2) ロールは必ず寝かせて保管してください。ロールは直立した状態で保管すると、端の部分が変形する恐れがあります。
- (3) ロールと接着剤は、施工作业開始の24時間以上前には梱包から取り出し、室温になじませて下さい。
- (4) ロールは梱包により、圧縮された状態にあります。
施工作业開始の少なくとも2時間前には梱包から取り出し、ストレスから解放してください。
- (5) 乱雑な積入、積み降ろしはしないでください。
- (6) 屋外放置しないでください。

2. 下地の条件 (ジムボード・木質下地・コンクリート下地)

- (1) 通常、モルタル金コテ仕上げの下地上に敷設します。
- (2) 木質下地の場合、下張り合板 (12~15mm厚) の2重構造でなければなりません。
- (3) コンクリート下地の場合、表面強度が十分にあり、乾燥していなければなりません。
- (4) **ジムボードの場合は以下に従ってください。**
 - ① ジムボード設置個所の下地 (モルタル、コンパネ、フローリング、塩ビシート、タイル等) は平滑で不陸がないようにしてください。
 - ② ジムボードを丸のこ、ノギリ等でカットし敷き詰めてください。可能であればジムボードは壁から数ミリ離して敷き込むことをお勧めいたします。
 - ③ 床とジムボードネオの接着は不要です。ただし巾木や見切り材等でジムボードが動かないように固定してください。
 - ④ ジムボードのジョイント部(目地)とラバーマットのジョイント部(目地)が重ならないようにしてください。

※ ジムボードには表裏がございます。滑りやすいシート面が裏側になりますのでご注意ください。

※ 接着をより良くするためにウレタン系接着剤の塗布前にPP樹脂プライマーの塗布をおすすめいたします。

3. 下地工事に関する留意事項

- (1) 施工下地は、乾燥し、きれいで、滑らか且つ水平な状態に仕上げてください。ジョイント部の隙間・段差の原因となります。
- (2) モルタルかす、ホコリ、ペンキ、油類などが付着していないことを確認してください。
- (3) 古い下地に残る接着剤等は、完全に取り除いてください。
- (4) 下地の目地、ひび割れ、ギザギザ等がある場合は、補修用モルタルで手直ししてください。
- (5) pHテストを実施し、pH値が9以上であれば施工工事を始めるまでに中性化してください。
- (6) 下地工事の終了後は、敷設作業までの間、カバー等で養生してください。

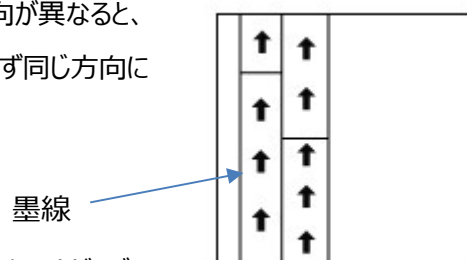
施工手順

1. ラバーマットロールの割付・墨出し・仮置き

- (1) 仮置きを目安となる墨線（基準線）を記入します。窓際、出入口、柱回りなどの納まり具合を検討してください。ロールには敷設方向があり、裏面に矢印が印字されています。矢印の向きに合わせて、敷き詰めてください(注1) 最終的にはローラーで転圧します。ロール同士の継ぎ目は3mm 重なるようにしてください。全てのロールは限りなく均一に生産されておりますが、ゴム形状の違い、光の反射具合により、多少の明暗の差が起きる場合があります(注2)
- (2) 施工現場によっては、壁がまっすぐでなかったり、直角でなかったりする可能性があります。墨線（基準線）を参考にしつつ、調整しながら仮置きしてください。
- (3) 壁や柱と接するタイルは、金属定規とカッターを用いて、正確にカットしてください(注3)



注1) ラバーマットの各ロールは、同一方向に敷き詰めてください。製品は並べる方向が異なると、表面の形状に対する光の反射が変わり、色調、明暗に差が起きます。必ず同じ方向に並べ施工してください(右図参照)。



注2) 製品はリサイクルゴムを主原料とし、すべてロールは限りなく均一に生産されておりますが、ゴム形状の違いによりロールによっては多少の明暗の差がおきる場合があります(光の反射)。施工場所の環境(照明等)に従い、適切なロール配置をご考慮ください。

注3) ロール巻き始め部分(芯側)はロール巻き取り時のストレスがかり薄く延ばされ、幅広（通常幅+1センチ程度）になり、直線が出ていない場合があります。ストレスを開放しても戻らない場合は端部を数センチ程度カットしてご使用下さい。元の幅のままで貼ると、後のオーバーラップの工程で真っすぐに揃わない原因につながります。なおロールの長さには若干余分がありますが、切断される際は十測した上で必要な丈を確保して使用ください。



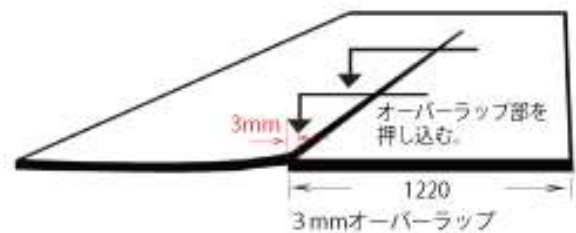
ロール巻き始め部分(芯側)

2. ラバーマットロールの接着施工

- (1) 接着剤は、専用の一液性ポリウレタン接着剤（ルビロン 101、トーヨーポリマー社製）を推奨します。
使用量は350g～450g/㎡が目安ですが、下地の状況により判断下さい。
- (2) クシ目小手にて接着剤を広げ、オープンタイム経過後、40分以内を目安にロール敷設を完了してください(注1)。
(オープンタイム夏季：10～20分、春・秋季：10～20分、冬季：20～30分)
- (3) 張合せ直後にローラー(約5kg)等で十分に転圧してください。
転圧の方向は、最初に短手方向とし、次に長手方向に行ってください。
シート下に空気溜りがある場合は、転圧ローラーでジョイント部より抜き取り、1～2時間後に再度転圧してください。
- (4) 最初のロールを貼り合わせたら、次のロールを折り曲げ、接着剤を広げます。接着剤がジョイント部分から表面に溢れないよう、均一に広げてください(注2)

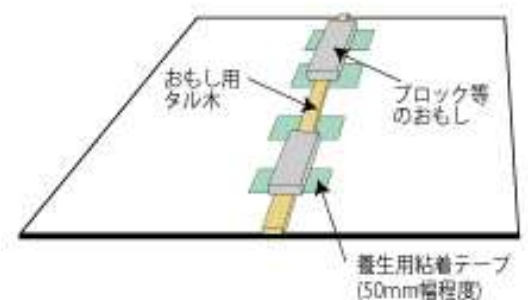
注1) ロール表面に接着剤が付かないよう注意してください。もし、接着剤が付いた場合は、直ぐにウエス等で拭き取ってください。
硬化した後の拭き取りは、困難です。

注2) ロールのジョイントは、3mm重ねて(オーバーラップ)敷設して下さい。厚さ8mmの製品はつなぎ目をより密着させ、冬期の目地の開きを防止するため、長手(丈方向)及び短手(幅方向)のジョイントを3mm程度(1/8インチ)オーバーラップし、継ぎ目が見えないように押し込み施工することを標準施工としております(右図参照)。



(5) ロール同士の継ぎ目部分は、養生テープと重石で押さえつけ、浮き上がらないようにしてください(右図参照)。

(6) 接着作業終了後、少なくとも 24 時間は、ロール上を歩いたり、物を置いたりしないでください。



(7) ジムボードとともに使用する場合は、ジムボードが動かないように、ジムボードとラバーマットが見える側面には幅木やスロープを入れて下さい。またランニングマシンや重量器具の足下には凹み防止プレートをご使用ください。

メンテナンス

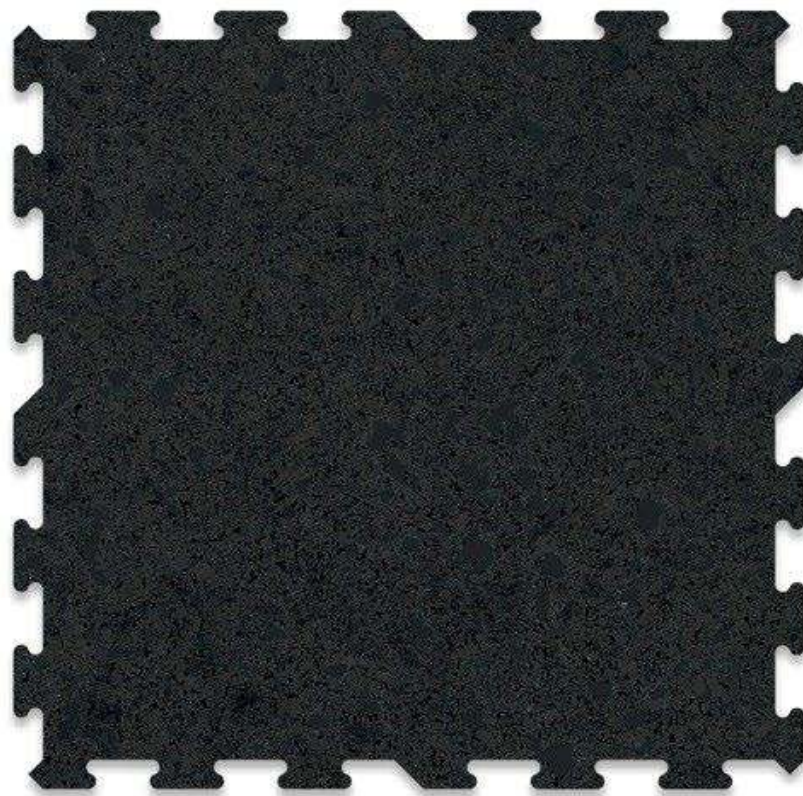
1. 引き渡し前のクリーニング

- (1) 汚れ、ほこり、砂、小石などは、ほうきやモップ等できれいに取り除いてください。
- (2) 中性洗剤（pH値7～9、リンレイ社製の『Newプロインパクト中性』等）を約15倍に薄め、柔らかいナイロンブラシやパッドにつけてクリーニングを行ってください。
- (3) 床面が乾燥する前に、きれいな水と水吹き用モップで洗剤をふき取ってください。
- (4) 隙間から水が染み込む可能性があるため、水浸しにしてはいけません。

2. 日常的なクリーニング

- (1) 汚れ、ほこり、砂、小石などは、ほうきやモップ等できれいに取り除いてください。
- (2) 中性洗剤を約50倍に薄め、柔らかいナイロンブラシやパッドにつけてクリーニングを行ってください。
汚れがひどい場合は、中性洗剤を約10倍に薄めて使用してください。
- (3) 床面が乾燥する前に、きれいな水と水吹き用モップで洗剤をふき取ってください。
- (4) 隙間から水が染み込む可能性があるため、水浸しにしてはいけません。

TJM2001 ラバーマット



インターロッキングタイル 標準施工要領・メンテナンス手順

改定日：2023/10/01

製品に関するお問い合わせ

製品お問い合わせ窓口へ

お問い合わせください。

コンシューマ事業部

0791-62-0088

土日祝日を除く 10:00~18:00

KLASS株式会社

〒679-4195兵庫県たつの市龍野町日飼190

事前準備

1. タイルの運搬と保管について

- (1) 敷設工事は、すべてのタイルの運搬が終わるまで始めないでください。
未開封のラベルが張ってある状態で作業現場へ納入してください。
- (2) タイルと接着剤は、施工作业開始の 24 時間以上前には梱包から取り出し、室温になじませて下さい。
- (3) 梱包下部にあるタイルは、他のタイルの重みにより、圧縮された状態にあります。
施工作业開始の 24 時間以上前には梱包から取り出し、ストレスから解放してください。
- (4) 乱雑な積込、積み降ろしはしないでください。
- (5) タイルは屋外放置しないでください。

2. 下地の条件

- (1) 通常、モルタル金コテ仕上げの下地上に敷設します。
※石膏を主原料とする塗装やレベリング材の上は、施工できません。
- (2) 木質下地の場合、下張り合板 (12~15mm 厚) の 2 重構造でなければなりません。
- (3) コンクリート下地の場合、表面強度が十分にあり、乾燥していなければなりません。
- (4) ジムボードの場合は以下に従ってください。
 - ① ジムボード設置箇所の下地 (モルタル、コンパネ、フローリング、塩ビシート、タイル等) は平滑で不陸がないようにしてください。
 - ② ジムボードを丸のこ、ノギリ等でカットし敷き詰めてください。可能であればジムボードは壁から数ミリ隙離して敷き込むことをお勧めいたします。
 - ③ 床とジムボードネオの接着は不要です。ただし巾木や見切り材等でジムボードが動かないように固定してください。
 - ④ ジムボードのジョイント部(目地)とラバーマットのジョイント部(目地)が重ならないようにしてください。

※ジムボードには表裏がございます。滑りやすいシート面が裏側になりますのでご注意ください。

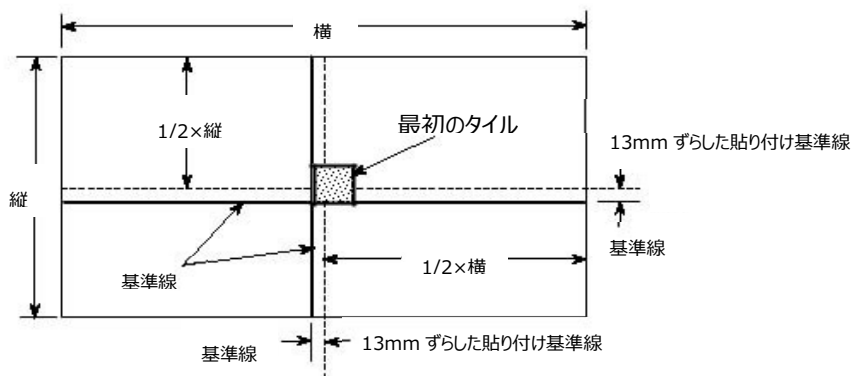
3. 下地工事に関する留意事項

- (1) 施工下地は、乾燥し、きれいで、滑らか且つ水平な状態に仕上げてください。
(ジョイント部の隙間・段差の原因となります。)
- (2) モルタルかす、ホコリ、ペンキ、油類などが付着していないことを確認してください。
- (3) 古い下地に残る接着剤等は、完全に除去してください。
- (4) 下地の目地、ひび割れ、ギザギザ等がある場合は、補修用モルタルで手直ししてください。
- (5) pH テストを実施し、pH 値が 9 以上であれば施工工事を始めるまでに中性化してください。
- (6) 下地工事の終了後は、敷設作業までの間、カバー等で養生してください。

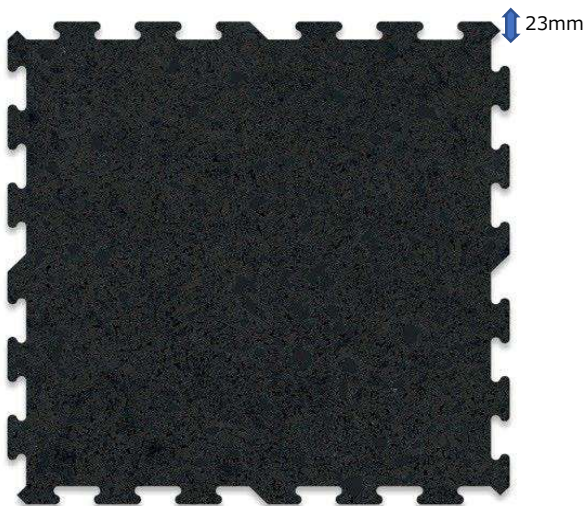
施工手順

1. インターロッキングタイルの割付・墨出し・仮置き

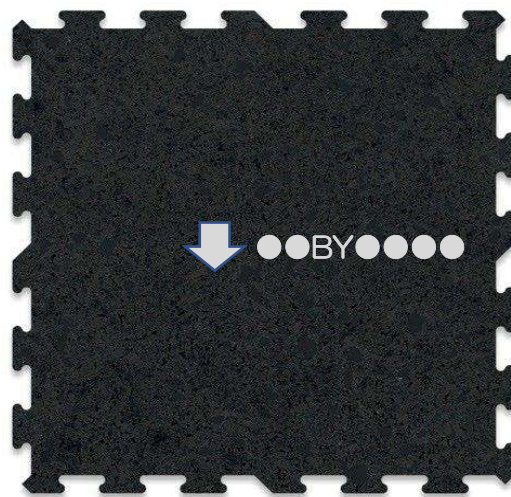
- (1) 窓際、出入口、柱回りなどの納まり具合を検討の上、墨出し（基準線）を行います。
タイルの大きさ、施工場所の形状、ロスを考慮し、中心点の位置を設定してください。
タイルのジョイント部分は 23mm です。基準線から 13mm ずらし、貼り付け基準線とします。



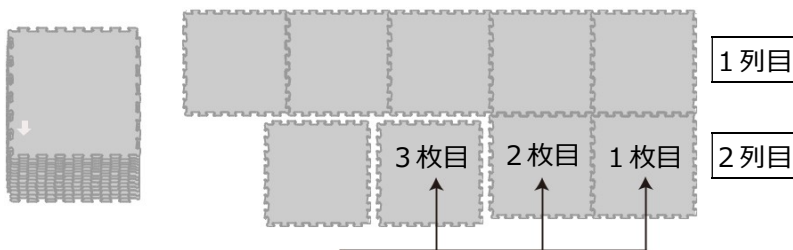
表



裏



- (2) 最初に置いたタイルの隣に、次のタイルを置きます。
壁や柱と接するタイルは、金属定規とカッターを用いて、正確にカットしてください。

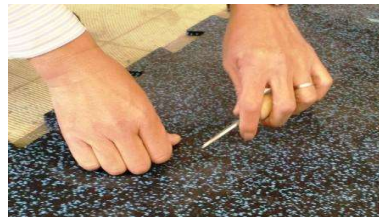
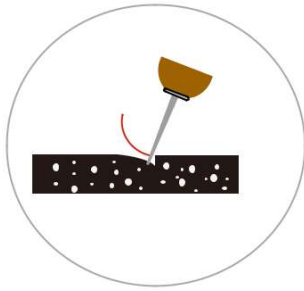


※タイルには敷設方向があり、裏面に矢印が印字されています。矢印の向きに合わせて、敷き詰めてください。

※全てのタイルは均一に生産されておりますが、製造ロット、原料の配合、光の反射具合により、多少の明暗の差が起きる場合があります。

※生産時の寸法コントロールについては鋭意努めておりますが、標準交差 $\pm 0.5\%$ （1 タイルあたり $\pm 3\text{mm}$ ）です。施工場所の環境に従い、仮置きして確認しながら、適切なタイル配置をご考慮ください。

(3) タイルのジョイント部分が沈む場合は、目打ち等で持ち上げ、継ぎ目を一体化させてください。



(4) ジムボードとともに使用する場合は、ジムボードが動かないように、ジムボードとラバーマットが見える側面には幅木やスロープを入れて下さい。またランニングマシンや重量器具の足下には凹み防止プレートをご使用ください。

2. インターロッキングタイルの接着施工

インターロッキングタイルは接着せずに使用できますが、接着施工を希望の際は以下を参照してください。

- (1) 接着剤は、専用の一液性ポリウレタン接着剤（ルビロン 101、トーヨーポリマー社製）を推奨します。
使用量は、約 350g～450g/m²が目安ですが、下地の状況により判断下さい。
- (2) クシ目小手にて接着剤を広げ、40 分以内にタイル敷設を完了してください。
- (3) 張合せ直後にローラー(約 5kg) 等で十分に転圧してください。
シート下に空気溜りがある場合は、転圧ローラーでジョイント部より抜き取り、1～2 時間後に再度転圧してください。
- (4) 接着作業終了後、少なくとも 24 時間は、タイル上を歩いたり、物を置いたりしないでください。

メンテナンス

1. 引き渡し前のクリーニング

- (1) 汚れ、ほこり、砂、小石などは、ほうきやモップ等できれいに取り除いてください。
- (2) 中性洗剤（pH 値 7～9、リンレイ社製の『New プロインパクト中性』等）を約 15 倍に薄め、
柔らかいナイロンブラシやパッドにつけてクリーニングを行ってください。
- (5) 床面が乾燥する前に、きれいな水と水吹き用モップで洗剤をふき取ってください。
- (6) 隙間から水が染み込む可能性があるため、水浸しにしてはいけません。

2. 日常的なクリーニング

- (1) 汚れ、ほこり、砂、小石などは、ほうきやモップ等できれいに取り除いてください。
- (2) 中性洗剤を約 50 倍に薄め、柔らかいナイロンブラシやパッドにつけてクリーニングを行ってください。
(汚れがひどい場合は、中性洗剤を約 10 倍に薄めて使用してください。)
- (3) 床面が乾燥する前に、きれいな水と水吹き用モップで洗剤をふき取ってください。
- (4) 隙間から水が染み込む可能性があるため、水浸しにしてはいけません。